

東山泉涌寺は大和太路一の橋の東にあり。当寺の初は弘法大師の開基なり、其後文徳帝の御宇齊衡三年に、左大臣

緒嗣公再建あつて天台宗となし、仙遊寺と号す、此山に仙人遊びしゆゑなり。中興の開山は俊法師、号は我禪。それ

より以来天台真言禪律の四宗を兼学す。当山の麓に霊泉涌出しければ、号を泉涌寺と改む。抑俊じやう法師は肥後国飽

多郡の人なり、仁安元年八月に誕生し、四歳にて天台池辺寺の珍暁が弟子となり、十八歳にて落髮し、十九歳にして太宰

府の観音寺にて具足戒をうけ、三十三歳にて律宗を伝ため宋国にわたり、四十六歳にして嘉定四年二月廿八日帰朝せ

り。建保六年に和州の刺史中原信房が崇敬によつて、我領地泉涌寺を寄附せり、夫より当寺に住職して、後堀川院の御

宇嘉祿三年閏三月八日六十二歳にして遷化せり。

天子の官寺となる事は、八十六代四條院を権輿とせり。此帝降誕の時我禪々々と宣へり、俊じやう我禪和尚再生して天

子の位に昇り、四條院と出誕生給ふよし、人の夢に見えけるとぞ。是より以来代々の帝当山へ葬り奉る、陵は前帝神主

殿の前にあり。

仏殿の本尊は弥勒釈迦阿弥陀の三尊を安置す。東山といふ額は張即之の筆なり。

舍利殿の本尊は仏牙の舍利なり、二重の金塔に安置す。抑此仏牙の由来を尋に、仏涅槃に入給ふ御時、羅刹足疾鬼ひま

を窺ひて仏牙を掠奪たりしを、韋駄天降伏をくはへ取とゞめ、昼夜に敬て身を放し給はず。然して仏滅後一千六百余年

を経て、大唐の白蓮寺道宣律師、戒香薰修の威徳冥感にも通じけるにや、韋駄天かたちを顕し三皈八戒をうけ得て、其

報恩に此仏牙をさづけ給へり。夫より人間に伝はくり白蓮寺れんじに納め、金閣の宝函ほうくわんに秘しおけり。日本に渡り給ふ事は、当山中興の開基しゆん俊しゆんじやう法師ほつしの末弟たんかい湛海、我師の宋国そうこくに渡りし芳跡ほうしを慕ほひて白蓮寺れんじに詣まじ、赤梅檀せきばいだんを供じて仏牙を恭礼し、仰信のあまり窃せうに舍利を懇望のよし述けれども、叶はずして空く本朝に帰しが。猶志願やむ事なく、かさねて入唐し、二階の樓門三重の塔婆をかまへて、舳艫しゆくを滄溟そうめいにうかべ、事ゆゑなく紅隱軍に至りしかば、白蓮寺れんじの修造成就し、大衆等甚深の志を感じ、其徳の凡人にあらざる事を知りて、酬答たゞ来賓に任すべきよし衆命一同なりしかば。是以万里渡海の本懐は偏に仏牙の求請にあり、二度来朝の素願、しかしながら舍利の利益を思ふよし具に述べれば、忽しん仏牙の附属をゆるしけり。歡喜の涙をおさへて帰帆きぼんの纜ともつなをととき、ことゆゑなく彼御舍利を本朝にうつし、当寺の本師と崇奉る。

観音堂の本尊聖観音は、玄宗皇帝げんそうくわうてい楊貴妃やうきひに別れ給ひて、追善のため妃の貌をうつして作り給ふ。補陀落山ふだらくせんの額も此帝の筆なり。〔洛陽観音巡りの其一なり〕